

# 平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	7	担当部課名称	教育推進部図書館
事務事業名	図書館利用及び貸出事業（本館）		
見直しのタイトル	臨時職員、非常勤嘱託職員による業務見直し		
添付資料 有無	無		

## 1 現状における課題

- ・臨時職員及び非常勤嘱託職員については、直接雇用のため、雇用手続や毎月の賃金支払い業務、シフト事務が発生している。非常勤嘱託職員においては、採用試験における事務も発生していることに加え、予期せぬ退職や病気等による欠勤があった場合、正規職員が各施設に出向いて、その穴を埋めることになる。
- ・新地方公務員法においては、臨時職員による運営は認められないため、運営手法の見直しは必須である。

## 2 業務改善の趣旨及び具体的内容

### 【趣旨】

他市で導入されている事例等を踏まえ、現在の臨時職員、非常勤嘱託職員を含めた運営方法については見直し、会計年度任用職員制度へ移行するのか、委託化を図るのか洗い出しを行う。

### 【具体的内容】

次の行程を踏まえた後、32年度から運営手法を変更することを目指す。

- ・全ての図書館業務について、マニュアルを作成（または修正）した後、専門性の有無について切り分けを行う。
- ・委託化した場合のメリット・デメリット、会計年度任用職員制度による場合のメリット・デメリットについて洗い出しを行う。
- ・年度末までに方向性を決め、次年度速やかに調整できるようにする。

## 3 改善により期待できる効果

委託化した場合

### 【事務局】

- ・臨時職員の登録事務及び雇用手続（臨時職員4人、3か月雇用×4回）の事務量を削減
- ・非常勤嘱託職員16人の採用事務及び雇用手続の事務量を削減
- ・シフト表作成にかかる事務、毎月の賃金・報酬支払事務に係る事務量を削減
- ・新規採用者への窓口での研修に係る事務量を削減
- ・上記事務により、これまで不十分だった専門性の高い事務（貴重資料・地域資料等の蔵書管理を含む蔵書構築及び評価、レファレンスサービス、児童サービスに関する読書支援、学習支援）やアウトリーチ事業を実施することができる。

### 【職員課】

- ・毎月の賃金・報酬支払チェック事務に係る事務量を削減

## 4 実施スケジュール（概要）

6～1月 マニュアルの作成（または修正）、他市事例の研究及びコスト比較  
9～10月 非常勤嘱託職員へのアンケート実施  
11～1月 マニュアルを基にした業務の切り分け  
2～3月 委託化する場合の契約方法、仕様書等の検討

## 5 実施結果の振り返り

臨時職員、非常勤嘱託職員による業務見直しについて、現行体制、主な業務内容、会計年度任用職員制度へ移行した場合と業務委託した場合の金額面での比較、それぞれのメリット・デメリット等について検討した結果、コスト面のみならず、当該職員への指導に係る要素なども考慮した場合、会計年度任用職員制度へのスムーズな移行が妥当であると判断した。

なお、今後の社会情勢や市民ニーズ、また県内図書館の動静なども注視しながら、本市の図書館業務の円滑な運営が実現できるよう、引き続き業務の見直し等を行っていきたい。